

国際通り電線類地中化について

喜納 兼真

Kenshin Kina
沖縄県土木建築部 南部土木事務所長

“奇跡の1マイル”という国際通りについての表現がよく使われるが、これは「戦争で壊滅的な被害を受けた那覇の街や牧志街道（現国際通り）が、戦後、驚異的な発展を遂げたことを形容したもの」といわれている。

戦後60年近くを経過した現在、国際通りを中心とした古くからの商業市街地は、モータリゼーションの発達により、郊外に駐車場を完備した大規模小売店舗が整備されてきたことにより、その勢いが後退しつつある。これにより、これまでの都市の中心地としての地位を失うのみならず、都市構造そのものにも影響が生じ始めており、都市整備を推進していく上で、商店街の活性化・近代化は緊急の課題である。

そのため、中心市街地活性化を支援し、併せて高齢者や身体障害者等が自立した社会生活を営むことに資するための街路事業として、平成11年度より国際通りの整備に着手している。

那覇市は街づくりの一環として、国際通りを将来、バスのみを通すトランジットモールとして位置づけしており、その実現に向けて実際にトランジットモールとしての社会実験も行っている。

国際通りの整備にあたっては、平成11年度に通り会、那覇市、学識経験者、県から成る国際通り線整備計画協議会を設置し、その中で各委員の意見、要望等を取り入れて、整備内容を決定している。

国際通りは一般の買い物客はもとより観光客等の歩行者がかなり多く、そのわりには歩道が狭い。そのため、電線共同溝を整備して電線類を地中化することにより歩道の有効幅員を広げるほか、現況全幅員18mの中で歩道を4mから75cm程度広げることになった。また、歩道舗装をグレードアップし、さ

らに、これまで電柱に共架されていた照明灯についてもデザインに配慮したほか、要所に歩行者溜まりとしてポケットパークを設置することにより、安全で快適な歩行空間の確保に努めている。また、誰にでもやさしい、親しみの持てる通りとするため、老人や幼児、身体障害者、視覚障害者へも配慮し、道路構造において車道と歩道の段差をなくしたバリアフリータイプとするほか、歩道舗装に使用するブロックについても視覚障害者誘導用ブロックとの輝度比を測定し、視覚障害者が識別しやすいように努めている。

それから、平成15年度に那覇市福祉のまちづくり整備基準等に基づき高齢者、身体障害者に配慮した国際通り線の整備を行うことを目的に視覚、身体障害者福祉協会、通り会、那覇市、県から成る国際通り線バリアフリー検討会を設置している。この中で、これまでに整備された道路の中で、身体障害者等から視覚障害者誘導用ブロックの識別や歩車道の段差等について不平、不満等をいわれた箇所があることから、これを解消するため、本格的な歩道舗装工事に着手する前に、舗装ブロック、歩車道の斜路を試験施工した箇所において、実際に身体障害者の方の協力のもとに施設のでき具合を検証している。

電線共同溝は道路の地下空間を活用して電線、光ファイバー等をまとめて収容するものであり、これによって、安全で快適な歩行空間の確保、都市景観の向上、都市災害の防止、高度情報化社会への寄与を目的としている。電線共同溝は別名「C・C・BOX」とも呼ばれており、最初のCはCommunity（地域・共同）、Communication（通信・伝達）、Compact（小型）の意味があり、2番目のCはCable（電線）を表している。

電線共同溝を整備するためには、沖縄ブロック電線類地中化協議会において電線共同溝整備路線として承認されることが必要であるが、その前提として電気事業者、電気通信事業者等の電線管理者の同意を取り付けなければならない。国際通り線は整備路線として承認され新電線類地中化計画（平成11年度～平成15年度）に採択されている。

国際通りにおいては、電線共同溝設置工事が開始されてから実際に電柱がなくなるまでには、以下の工程を要する。

- 1 歩道拡幅のための新たな側溝の設置
- 2 既設舗装、側溝の取り壊し
- 3 電線共同溝を設置するための地下空間を確保するため、水道事業者、下水道管理者、ガス事業者等による既設の占用物件の移設及び電線管理者による電柱の仮移設、信号の仮移設
- 4 電線共同溝設置工事
- 5 照明灯の設置
- 6 歩道舗装、附属施設工事
- 7 電線管理者による電線共同溝へのケーブル入線、電柱、架空線の撤去

工事は久茂地側から開始しており、各年度毎に1から6の工程を繰り返しながら順次安里側へ進めていく計画であり、7のケーブル入線、電柱、架空線の撤去は、久茂地から安里までの国際通り全体の電線共同溝設置工事が完了した後に実施されることになり、その時に晴れて電柱のない快適な公共空間が創出されることとなる。実際の工程は平成13年度から電線共同溝設置工事に着手しており、平成17年度完了の予定であり、その時点で国際通りは電柱のない快適な歩行空間が確保されることになる。

平成13年度から本格的に始められた電線共同溝設置工事は、国際通りの歩行者が多いことから夜間工事を余儀なくされており、これに伴う各占用者の工事、歩道舗装工事等もすべて夜間に行われている。工事は歩行者の少なくなる夜10時から準備・施工され、翌日の午前5時に作業を終了し、その後、掘り起こした分を埋め戻し、午前6時までに仮舗装まで完了して歩

行者へ開放するという毎日の工程になっている。

そのため、国際通りが工事中であり、その箇所の歩道舗装が仮舗装であるということを多くの方々に知られてないようであり、仮舗装等に対する苦情があった。また、観光関係の部署からは、観光客に誤解をあたえないように、国際通りの完成予想図の掲示をもっと増やして完成した時の国際通りの姿を知らせるべきだとの指摘を受けた。国のほうからは、「牧志のショッピングセンター予定地に実物大の幅員で完成形を造って整備後の国際通りを知らしてはどうか」というアドバイスをいただいたりもした。

工事を担当している当方としても歩行者、特に観光客の方々が「このようなアスファルト舗装が名所として期待して来た国際通りか」と落胆するのではないかと懸念しており、同時にそのようなことにならないよう、牧志のポケットパーク予定地に国際通りの完成予想図を大きく掲示するほか、工事中の要所に完成予想図を配置し、電柱のないグレードアップされた将来の国際通りを宣伝しているところである。

平成17年度には電線類が地中化され、高齢者や身体障害者に配慮したバリアフリーの、広くグレードアップされた歩道等、快適な空間を有しアメニティの向上した国際通りに改善される予定である。これにより国際通りを中心とした商業市街地の活性化及び高齢者や身体障害者等の自立した社会参加へ貢献できることを事業担当者として切に願うものである。



国際通りの完成イメージ図